

水素ステーションに関連するステンレス部品で成果

— ユキワ精工ユーザー訪問 — 藤原製作所(大阪市・東成区) 蓑田工場長に聞く



グリーンG1チャックも活用、刃もちが良くなったと言う

新たにツーリングを導入する際は「ユキワ製」

「スーパーG1チャックで加工が安定し、加工音が静かに。グリーンG1チャックは刃持ちが良くなり生産性が向上」

藤原製作所は昭和31年に創業し、現在は3代目へとバトンが引き継がれている。取材に対応してくれた蓑田工場長は「私は昭和55年の入社。初のN/C旋盤が中村留製。現在の仕事内容は、NC旋盤が中村留製。充電設備を含む電力



蓑田工場長。今年からスーパーG1チャックを積極的に活用開始。加工音が静かになり、面粗度も向上

今年から昨年導入したオークマ製マシニングセンターにも装着

充電設備を含む電力部品、水素ステーションを構成する高圧用ステンレス部品、自動車、電気製品などの金型部品、免震装置・・・

「とは言え、ツーリングは、聖和精機が最も使用頻度が高く、他にビッグ、日研が少し。ユキワ精工のスーパーG1チャック、グリーンG1チャックを活用するきっかけは、水素ステーションを構成する高圧用ステンレス部品の加工を想定し、昨年、40番主軸のオークマ製マシニングセンター導入の検討を重ねていた時、ユキワ精工の営業担当者との出会いがあったからだ。」

現在、ユキワ精工ツーリングは、スーパーG1チャック2本、スーパーG1チャックのロングタイプが1本、グリーンG1チャック1本の、計4本となる。「ユキワ製ツーリングはとにかく使っていて安心感がある。これが大切かと思う。ツーリングを新たに導入する場合はユキワ精工を選ぶことになる」と蓑田工場長は結んだ。

「単価や納期短縮のために在庫を抱えている。また、出荷後の配達時の梱包にも気を配っている」と言う。ユキワ精工との付き合いは、2000年以前からあり、キールレスのスーパードリムチャックをボール盤のねじ切りなどで活用していた。他社製のツーリングでは、50番主軸の時は気にならなかった音が40番主軸では気になったが、スーパーG1チャックを使用すれば、加工音がほとんど発生しなくなり、面粗度も上がった。その一方で、グリーンG1チャックも試したところ、刃持ちが良くなった。加工数が10数個対応できるようになった。



速くキレイに削れるecoなホルダ

精度をとことん突き詰めると、コレット式に迫り着く ツーリングシステム グリーンG1チャック

YUKIWA ユキワ精工株式会社

